



チーちゃん日記

夢屋プラネットワークス
“游人”
中島地利世

～【夏休みに過ごした事】～

08/10~11日、子供の頃読んだ「はだしのゲン」というアニメがドラマ化されていました。広島に原子爆弾が落とされて、今まで普通の日常生活が一瞬で地獄に変わるというようなのかくりアルな漫画で、体中にガラスが刺さったままや、お腹が破けて胃腸が外にでてきているのに感覚がわからず、ズルズル引きずりながら歩いている人もいて、そんな映像がドラマではどこまで表現が出切るのかちょっと怖かったけど観てみました。

さすがに胃腸は飛び出しませんが、ガラスが体に刺さっているのがハッキリ分かり、とても痛々しい感じで、ドラマは作り物という事は分かっているんですが…実際に戦争時の広島の住民はこんな風になっていたのだ…と思ったら、とても悲しくなりました。

中でも、兄弟の末っ子を演じる男の子がまた演技が上手な子で一つ一つの動作が完璧でした。ビデオに録画して何度観ても泣いてしまい、最後には目がすごい事になっていました。(笑) このドラマを観て考えさせられた事は、平和ボケした今の世の中、戦争を知っている人がいなくなるだろうというなかで、最近では子供から大人まで、自殺したり…簡単に人を傷つけたりする時代だという事、戦争の中で生きていた人間は必死に“生きる”“生きていく”時代だったという事です。

そんな中、私の日々の生き方を見直すと「何て無駄ばかりな生き方をしているんだろう」と思う事がたくさん出てきて、もっと大切に「有難み」を感じるべきと反省する事ばかりです。テレビを観る以外では、今年の夏休みは九州を一周？して来ました。

まずは12日に、故郷「対馬」に帰ってお墓を掃除をしたり、知り合いの家一軒一軒回ってお土産をわたした後は、祖母ちゃんの病室に行きそこで寝泊りさせてもらいました。一緒にご飯を食べたり、たくさんお話して15日に鹿児島に住んでいる同級生と一緒にその人の家へ行き「月末に家族で阿蘇に行くよ」と約束して私だけ一足先に帰りました。「宮崎」や「大分」など寄り道しながら阿蘇に帰って来ました。

とっても充実した夏休みだったけど、さすがにヘトヘトになり「年だな」と思いました。(笑)

私の家は《市営住宅》なのですが、市役所から「年末までに火災報知機を取り付けるからお宅にもお邪魔させて頂きます。」という知らせがあり、今年の大掃除はいつも以上に張り切ってキレイに掃除しました。

終わって、担当の人を待っている間、見落としがないか少し緊張してしまいましたが、でも掃除したおかげで、今まで物置だった部屋が一つ空いて、自分専用の部屋が出来ました。

誰にも邪魔されない落ち着く空間ができて、とてもリラックス出来ています。

そんな中…去年、兄と一番下の妹が引っ越して行き、今、家では母とすぐ下の妹と3人だけで生活していて「寂しい正月を迎えない為に」と母の提案で、その人数で初めて家族の（女ばかりで気楽な）忘年会をしました。

滅多に食べれない鍋料理（笑）を準備する作業中も、出来上がった鍋料理を囲み仲良く箸を突き合う時もワイワイ賑やかで…あまりお酒を飲まない妹も珍しく飲んで、久々に母と3人で、お互いの仕事内容やTVの話題まで話の尽きない楽しい一時でした。

お正月が明けて今度は、いつも意見がバラバラだった家族が皆で揃って初詣に行きました。

長年、同じ家に一緒に住んでいながらこれも初めての事で、「なかなか珍しい家族だな…他の家もそんなもんかな？」と一人、苦笑いしていました。（笑）

せっかく近くにあるので、場所は「阿蘇神社」にしたまでは良かったのですが…普段から観光の方や地元の方で大人気な場所は、正月が明けて一週間が過ぎてもまだお参りの方が多く、人混みが苦手な母は、小さな悲鳴をあげていました。

お参りの後、『幸運おみくじ』というのがあって「それを引いてみよう」という話になって、皆で買うと何と…私だけ《大凶》が当たってしまいました。

動揺を隠しきれない私を見て、皆が「いや～、逆に珍しい!!」とか「ある意味、貴重ね!」と慰め?の言葉をかけてくれていました。

気を取り直して木に結びつけようと、おみくじの紙を折りたたんでキュッと引っ張った時、紙の端で指をザツクリ切ってしまい「早速、やらかした…」と凹へこんでしまいました。

それを見ていた神社の人が「今、大凶の運は消えましたから…今年はまだ大丈夫」と言って下さって「神社の人が言うんだから間違いない!？」と単純な私は、次のお参りはもちろん《縁結びの松》を周る事。（笑）意気込んで歩くと、観光の人に笑われてしまいました。

「せのび石」という場所があって、そこで身長を測ると少し伸びている気がして「オオッ」とリアクションとると「いやっ…気のせいだから!」とツツコミが飛んできました。（笑）最後はやっぱりここ、阿蘇神社で一番人気の「願かけの石」でお参りしました。

家族の健康はもちろんの事、【夢屋】の皆の幸せもしっかり祈って来たので大丈夫なはず!？正月の話だけでざっと…最後になってしまいましたが、私は今年も変わらずに、亀の様に首を出したり引っ込めたりしながらゆっくりゆっくり頑張って進んで行けたらと思います。

今年も色々な事がありました、その中でも一番☑嬉しかった事は、【夢屋】にとっても素直で可愛いらしい《新メンバー》池邊美早さんが入所してくれた事です。

今回は、美早さんの事をちょっと書いてみました。

*【いつでも笑顔を絶やさず、楽しい笑い声で皆を魅了する事】

宮本さんや深雪さんが、ふざけて面白い事ばかりしていて「何が可笑しいと？」と聞くと「【夢屋】が楽しいから〜っ！」と言いながら、たくさん笑ってくれるようになりました。他にも例えば、音に敏感で自分の担当仕事の食器洗いをしている時、ミュさんが「行くよ美早さん！」と言うと「うん♪」と楽しそうに声を掛け合っているのも、「何の事だろう？」と2人を見てみると、深雪さんが流した排水の音が「ズズツ」と響いたり、トイレの流す音や掃除機の音になるだけでも「キャハハハッ!!」と、とっても気持ち良い大きな笑い声を聞かせてくれるので、こっちまで楽しくなります。

*【折り紙を作ってくれたり、絵を描いて来てくれる事】

手がとても器用な人で、折り紙が好きみたいで、コウキ君の玩具になるような可愛らしい形の折り紙をよく作って来てくれます。私が =^_^= 猫が好きだとわかると、本物の様な立体感の猫をたくさん作って来てくれて、その出来栄えの良さには、本当にビックリさせられました。絵も凄く上手で、【画家】も顔負けな位のとても細やかでキレイな絵を描いて来て、皆に褒めてもらい「1時間ずつ3日かかった…」と言い、にんまり満足気に微笑んでいます。最近、すっかり【夢屋】モードに慣れて、本当の姉妹の様に親しみを持った話し方をたくさんしてきてくれるようになって、それがとても嬉しいです。

美早さんの事をかなり書きましたが…他に、私の大きな出来事といえば「対馬」から「阿蘇」に来て、10年目にしてやっと観光名所《阿蘇山》に行きました。

ある、とても気持ち良く晴れた日の事、【夢屋】が終わって、宮本さんが皆を連れて車で阿蘇山の方までついでに登って連れて行ってくれました。時間がなかったので、ロープウェイの入り口の所までしか行けませんでしたけど、そこに着くまでの間に途中で降りて写真を撮ったり、車から見える景色だけで十分キレイな位に天気も体調も紅葉も全てがちょうど良い日で、とてもリラックスして気分転換できました。来年は思いきって、【夢屋】の皆で歩きで登山に挑戦してみたいな(笑)と思いました。

【夢屋】での来年の目標は、当たり前の事ですが【健康第一】無理のない自己管理です。その為にも、お昼ごはん用の料理で今年の実験を活かして、さらに美味しくも感じられて栄養満点の料理ができるように、ますます努力していきたいと思います。

いよいよ、今年最後の【夢屋便り】で“一年間の出来事”を書きたいと思いましたが私にとって今年最大の出来事といえば…やっぱり、最愛の祖母が亡くなった事です。私が阿蘇に来て、10月で6年が過ぎましたが…阿蘇に来るまで、23年と半年の月日を毎日ずっと一緒に過ごしてくれた祖母が8月27日に89才で亡くなりました。今年のお盆に帰省した時「後4ヶ月頑張って、一緒にお祝い（卒寿）をしようね」と笑いあっていた矢先で、正直「今でも、まだ対馬にいる…」という気持ちがあつて「もう、この世にはいない」という実感が持てないままです。

子供の頃から耳が不自由な関係で、人付き合いが苦手な寂しく過ごしていた日々に一人で大事な存在（祖母・両親・姉・友達）全ての役割を引き受けてくれる人でした。おばあちゃん達のグループで山登り（紅葉見物、栗拾い、薪拾い、柿収穫）をしたり海水浴場、公園などを掃除したり、ゲートボールの試合にまで一緒に参加しました。私がよくいじめられていた時は、遠くから木刀を持って走って来ていた姿が怖くて自分まで、一緒に逃げ出したかった位の迫力でした。（笑）とにかくお話が大好きな人で、一番よく話してくれたのは戦争時代のお話しでした。戦闘機が対馬に攻め入った時、自宅の近くを避難中に三男を背負うまく走る事が出来なかったのも、弾丸が足をかすたらしくて…その時の傷がまだ残っているのを見せてもらったこともあります…小さくても本当に生々しい傷跡でした。おふう曾おばあちゃん（ばあちゃんの母）の事も話ししてくれました。

戦争時、日本に来てひどい差別を受けて、ご飯や水もまともに与えてもらえなかった韓国の兵隊さん達に「日本の母」と慕われて、憲兵さんには内緒でコッソリ家に招きお世話をしてあげていたらしくて、家の中がにぎやかで、ばあちゃんが子供の頃にはよく兵隊さんたちに遊んでもらったり、歌を歌ってもらったと話ししてくれました。対馬に行って、ばあちゃんや伯母さん達に「夢屋」の事を初めて話した時に、親戚中「そんな金にもならんところに行って何になつと」、「ない時のかずらにされるだけ」と周囲から散々と言われる中で、「金にならめえと、うなが一生懸命に頑張りよつとなら立派な仕事たい」と言い、「ばあやんも、頑張ってちとせの子を見るまでは死なん」と言うので「死んでほしくないけん生まん…」と言ったら「ほんなこて、うながようなくじゅうもんとなごうおつてくれる、「夢屋」の人達は変つとらるね」とばあちゃんだけは、「夢屋」のみんなの事を褒めて？頷きながら笑っている人でした。

「何事も中途半端な気持ちや行動は一番でけん、人の信用はなくすとは簡単でん取り戻すとは、どんだけ難しい事かしれん。それを考えてうごかなぞ」と、そればかりよく厳しく言い続けていました。

精神年齢が小学生のままの私も、いよいよ今年の2月12日(火)で三十路に入りました。それまで「20代から30代へと変わる」と変にその事ばかりこだわって、意識していたけど当たり前のように今までと何一つ変わらず、それなりに楽しい日々を過ごしています。

特に違う事と言えば、今年は【誕生日プレゼント】の量が多めだった事です。(笑)

私が好きなキャラクターのマグカップや可愛い絵本、花束、一筆メッセージの色紙などや「体が今までのようにいかなくなるから」と健康お守りのブレスレットまでもらいました。その中でも、竹原お爺さんからの色紙のメッセージは私の宝物になりました。色が悪くなってしまうと困るので、すぐ額を買って来て壁に飾りました。ステキです。

そんな中、今年大きな変化といえば、【夢屋】が新しい場所へ移転した事です。

我ながらビックリする位、家族以外の他人と5年もの月日を過ごした【旧・夢屋】、大切な思い出を私にもたくさん残してくれました。気持ち新たに別れを告げて、蔵原に無事、引っ越してまいりました。蔵原のみなさんには、「初めまして、宜しくお願いします…」ですね。私が蔵原の夢屋に通い始めて最初に感じた事は、みんなで引っ越しのご挨拶まわりをした時「不器用な性格なので感じ悪い印象を与えたらどうしよう…」とか、不安で変に緊張してしまっていたけど、蔵原のみなさんも【旧・夢屋】に通っている時からずっと、応援して下さっているみなさんみたいに親切で温かい雰囲気の方が多くて、笑顔で「頑張ってるね、宜しくね!」と言ってもらえた時嬉しかったです。

それで少し余裕が出て来たのか「ずいぶん、歴史ありそうな蔵みみたいな建物が多いな…だから蔵原なのかな?」とそんな事を考えていました。(笑)

後、周囲に車の通りが少なく避暑地に来たようなのどかな場所で、田んぼや畑が多いので、生まれ育った故郷の思い出が頭の中にパツと広がりとても懐かしい気持ちでした。子供の頃、朝から夕方に日が暮れるまで田植えの準備している大人達の横で手伝いもしながら(手伝いになっているのかどうか…!?)泥んこになって他の子供と相撲したり、鬼ごっこをしたりして邪魔になり怒られたり(笑)、祖母と汗だくになり畑仕事をして採れたての野菜のおいしかった事…そんな、自然の仕事をしながら体力も健康的になっていくという当たり前のありがたみを忘れていたと思います。

ふと、そんな事を思い出させてくれました。

そんな温かい風景の田舎で作業できるのは幸せな事ですね。

今度の【夢屋】は農作業も出来る機会が多そうなので今から期待しています。また、買い物中や配達中など見かけられた時は、是非、気軽にお声をかけて頂けると嬉しいです。

私の方も今まで以上に積極的に話しかけて、もっとたくさんの人に自分の顔(笑顔)を覚えてもらえたら良いなと思って、【夢屋】と一緒に自分も初心の気持ちで頑張ります。

今年は、17日早く梅雨が明けた事で特に暑い夏が続きましたが

みなさんお元気でお過ごしでしょうか？

新【夢屋】で活動が始まり「蔵原は涼しいかな♪」という私の考えは甘く、やっぱり「どこに行っても暑いのは暑いんだなあ…」と少々、夏バテ気味なのですが…私はやっと今まで通りの作業が出来るように落ち着いてきたかなと思います。

そんな中、こちらの【夢屋】では、毎日とても楽しみにしている事が出来ました。

それは、おじいちゃん（竹原幸範さん）と会えてお互い元気か確認し合い、とても力強い握手で挨拶をする事です。（握力が強すぎて少し手が痛い時もあります…笑）

水曜日、ディーカーの車が迎えに来る時はみんなで見送りする時も楽しみです。

おじいちゃんに手をふっていたら、他に同乗している人達までなれてきて、少し手をふりかえしてくれるようになりました。（嬉）

蔵原の人にお店などであった時、私の顔を覚えていて下さって

「今日はお休み？」

と話しかけてくれる事があって、ビックリしたけど嬉しかったです。

毎日、近くをお散歩しているお婆ちゃんが、

「いつも賑やかな声が聞こえてくるよ、きょうもやりよんな…とこっちまで元気になるよ」と話しかけて下さったり、他にもある朝ゴミ出し行った時の事、ゴミ置き場で後ろから一人のお婆ちゃんが歩いて来て、ゴミ入れのフタは鉄で重いので開いたまま待ってあげていたら、

「あ～ありがとうね…夢屋さんの人だろ？あなた達が来て、ここ開けんでよかごつなつたけん助かるね」と言って下さったので、小さい事かもしれませんが「早速、蔵原の人のお役に立てた！？」「これからも気配りは大事にしよう」とますます“やる気”がでてきました。

【夢屋】の隣のレストランを建築時、大工さんや関係者の人達が話しかけて下さって、冗談ばかり言う人や励ましの言葉を言って下さる人が多くて、そんなとても温かい人付き合いは、結局【夢屋】があってこそその出会いなんだと改めて感謝しています。

暑いけど周囲のみなさんに癒されながら過ごした蔵原の夏でした。

ちょうど今から一年程前、とても暑い中…みんなで汗だくになりながら書いた作文。
私が書いた文章は、まさかの優秀賞！

「阿蘇市／情報課」秦 美保子さんのご協力を得て、地域の広報にも載せて頂きました。1ページ丸ごと使って頂いた広報を発行後、周囲の人の目がガラッと急変（笑）

【夢屋】の事を知って下さっている方や、知らない人達からも、「広報を見たよ」とたくさんのお祝いの言葉をかけて頂いて「せっかく同じ地域に住んでいるんだからね、もったいないからどんどん話して…もっと親しくなりましょうよ」「何かあったら、いつでも気軽に遊びにおいでよ」など、とても嬉しい事を言って下さる方もいました。

他にも、あるコンビニへ買い物に行った時、一人の店員さんが「広報に載っていましたね！おめでとうございます」と言って下さって…それ以来レジに行く度に、ちゃんと商品を指差して「こちら、温めますか？」とか「お箸は、何本つけましょうか？」と指で数を示して…ゆっくり大きめの声で私に聞こえているか確認しながら対応して貰えるようになり、今まではそんな風にレジで言われていた事が聞きづらい思いをしていたので、おかげ様で困る事が一つもなくなり、とてもありがたく助かっています。

最近では「御田祭り」というお祭りがあり、そこでもやはり広報の力は強く「作文の事で載っていた人でしょう？」と聞かれ、何とリンゴ飴をプレゼントして頂きました。

「そんな事があったんだね」「つらかったね」「夢屋さんと出会えて本当に良かったね」そんな風に心温まる事をたくさんの方に言って頂き、作文をキッカケに多くの人とつながり「中島地利世」という存在を知って貰えた事は貴重な体験だと思っています。

一つだけ心残りがあるとすれば、広報記事の最後にもう一言「彼氏募集中」という事も「書いてもらえば良かったね」なんて冗談で【夢屋】の皆で話しています。（笑）

《体に何らかの変化が...(; _ _) 》

23歳を過ぎてからある日、突然、目立ち始めたこの症状…ちょうど梅雨の季節になると手の甲にたくさんの吹き出物がでてきます。ひどい時は、赤紫のような色に腫れあがり、とても痒い状態が続きます。最近わかってきた事は、梅雨の季節だけじゃなく、3～4月・9～10月…つまり、寒すぎず＝暑すぎずという中途半端な時期によく現れます。

隠れたり出てきたりの繰り返しで治りも早く、「これ一体…何だろう!？」と不思議に思い、何度か皮膚科に行ってもハッキリした原因がわからず、「睡眠不足やストレス、食生活改善に努力して下さい。」と在り来たりなアドバイスだけで、ある程度の努力を試みますが一向に良くなり、この異変とも十年の付き合いになります。

そんな中、聴覚の方も年齢と共に変化が表れている様に思います。私の聴力が衰えた原因の元を辿ると、子供の時に風邪がこじれて百日咳という病状から髄膜炎まで経験した事がキッカケなので、それが関係するのかわかりませんが…日頃、ちょっと風邪をひいてしまったりすると、普段の半分も聴力が弱まります。その時はまるで耳に蓋をかぶせた様な感じで、咳をしたり鼻をかんだり唾液を飲み込む時に、耳の中が「バチン!」ともものすごい音がして、急に聞こえるようになったかと思えば、数秒もしないうちにまた聞こえなくなってしまう。

普段からただでさえ聞こえないのに、さらに聞こえなくなると日常生活の支障も増えて困る事がたくさんあります。たとえば、家にお客さんが来られた時のノック音や、「これ位なら聞こえます」と慣れて話してくれている人に、「今は、風邪気味でさらに聞こえません」とまた一から説明し直さないといけない事。それでも聞こえず、書いてもらう事が増えた気まずさ。かすかに聞こえていた車の音は、全く聞こえなくなるので、事故寸前の時が増えます。今までは、風邪ひいて1日～2日もすればすぐに元通りの耳になっていたのに、最近は1週間2週間…と聞こえないままの日が続く事が多くなり、ただ…困ってばかりより「こんなに、バチン…バチン音が続いていると、いつかは…完全に聞こえなくなるのではないか」という恐怖心も消えなくなっていました。

そんなふうに精神的に参っていた時、もしもの時の為にと完璧に手話を覚えたくて、出会ったのが通信講座の「手話入門」。これには結構、精神面で救われました。最初は「続くのだろうか…」と不安から始まり、少しずつ意味が分かっていくと楽しくもなり、完全にマスターするには「一年間を目標に」とされているコースで、3カ月に一度位の期間でテストが3回あるのですが、返ってくる答案用紙に、あの手話では有名な「砂田アトム」さんに、一言コメントを直筆で書いて頂けるという貴重なテストでした。

私は3回ともオール満点で最後にとってもお褒めの言葉を戴き、ものすごく嬉しくて大満足の達成感に酔いしれていると、ある事に気づいて少しだけガッカリしました。それは、何とせっかく覚えた手話が、半分位…関東の方でしか通じない方法だった事です。阿蘇にお住まいの、知り合いの聴覚障害者の方に聞くと「こっちは違う」と言われ、正しく教えて頂きました。

でもそれはそれで貴重な体験で、諦めずに今度は関西でも通じる手話の勉強に励みたいと思います。

《嬉しい！ご近所さん》 ♪(^。^) ♪

不思議なもので、何もかもが新しくなるこの季節になると気分もウキウキしてきます。

4/24で私も【夢屋】⑧周年！何もかもが新しくなるこの季節になると気分もウキウキ♪そんな楽しい気分の中、さらに嬉しい事がありました。

なんと、あの湯浅聡子さん率いる軍団（笑）いえ作業所《きぼうの家》さんが、[内牧]から近くの[竹原]に移転して来られました。

湯浅さんは、私達【夢屋】のメンバーにもとっても、優しく面白くて、話が聞き上手な面倒見の良い姉御肌の人で、他の皆さんも、いつも楽しく賑やかに迎えて下さいます。

漫才で言う、ボケとツッコミの様な【夢屋】と《きぼうの家》がこんなに近くに揃ったらこの辺りの地域はさらに明るくなる事は間違いなしだと思います。

先日は、私達メンバーまで開所式にお招き頂いて、みんなで行って来ました。

そこで私は、宮本さんの次にメンバーを代表してお祝いの言葉を言わせて頂きました。

その内容をここでもご紹介させて頂きたいと思います。↓こちらです。

『この度はおめでとうございます。

「きぼうの家」さんとは、親しくなってもう五年くらいになると思いますが、まさかこんな近くに引っ越して来られるとは思ってもいませんでした。

一ヶ月前見学した際、障害者の事をもとてもよく考えて素晴らしく改装されていて、私も

「夢屋よりも、こっちに来たいなあ」と思ったくらいでした。（場内から笑い起こる）

今のは冗談ですが（さらに笑い）、これからは年に一度でもいいので、一緒に何か行事がやれば嬉しいです。これからもどうか宜しくお願いします。

【夢屋】メンバー代表 ～中島地利世～』

↑以上、発表する時は「こんな大役…」と緊張で心臓バクバクでしたが、会場の皆さんに大笑いして頂き、「ホッ！」と安心したら汗だくでした。

でも、式（1部）の後、湯浅さんにギュッと抱きしめてもらった時の方が緊張しました。（笑）全部終わった後の交流会(食事)もすごいご馳走で、美味しかったので「晩ご飯の分まで」と意気込んで食べていると、さすがに苦しくなったので止めました。(@_@;))

《きぼうの家》さんの「いつもトイレをピカピカに磨いてお待ちしております」のお言葉に甘えて、帰り途中にしよっちゅう寄るかもしれません。宜しくお願いしま～す。（笑）

毎日、見れる場所というだけで心強くもあり、あっという間に、建物の前どこそこに《きぼうの家》が目立つ看板を立てられたのを見て「油断ならんな…夢屋も負けてられん」と良い刺激にもなり、私も⑨周年…⑩周年へと、向上心を持って頑張っていけそうです。

ちょっと道に出るとすぐお会いする機会が増えましたが、どうかうっとうしがらずに…^^;これまで同様、未長く仲良くお付き合いして頂けたらと思っています。

私は【夢屋】に通い始めて4月24日でちょうど6年になります。

6年前は少しの時間でも他人と一緒に過ごす事が大の苦手で、不安だらけだった私が、「産声あげた子供が4月から小学校一年生にあがる年月を過ごして来たんだな…」と正直、自分が一番、驚いています。その区切り良い機会に“自己分析”してみました。

どうか興味ないと思わず（笑）たくさんの人に読んで知ってもらえると嬉しいです。

- ①／1978年2月12日生 ↓出身地 ②（長所）指先が器用（短所）飽きっぽい
地図では長崎県上部にある《対馬》③／帰宅後、まず…する事は？「手洗い＝うがい」
6年たった今でも【夢屋】で気をつけている事、道具（量り）を大事に両手で持つ。《五歳の時からしている入浴中の習慣》
湯船で体を温める時、100歳までボケずに生きる為（笑）ちょっとした逆算をします。今の年齢31歳に合わせて、数を69秒まで数えてから湯船からでます。
（5歳は95秒、10歳は90秒と年齢ごとに数が減る） ⑤／口癖／痛い（頭痛い…） ⑥／平均睡眠時間～5時間～ ⑦／最近、ハマっている物（事）ビーズ作りを少し。
⑧／飲食：(好き)パン/ココア（嫌い）：梅干し/しそ ⑨／動物（好き）猫（嫌い）爬虫類
⑩／場所（好き）【夢屋】（嫌い）歯医者さん 11／好きな言葉「ありがとう」
12／好きな花「向日葵」13／好きな色「黄色」14／好きな本「江國香織さんの小説」
15／好きなタイプ（包容力のある人） 苦手なタイプ（暴力的な人）
16／好きなテレビ(ヘキサゴン) 17／好きな俳優「上地雄輔さん」女優(原田知世さん)
いつ聴いても心に“グツ”とくる好きな曲／歌手「平井堅さん」、「尾崎豊さん」
18／好きな休日の過ごし方「飼い猫とじゃれながらゴロゴロくつろぐ事」
19／子供の頃なりたかった職業「パン屋さん」 20／尊敬する人「竹原幸範さん」
21／幸せを感じる瞬間は？ 「自分が何かした事に、誰かが喜んでくれた時」
22／何をしている時が幸せ？ 「夢屋のみんな揃って楽しく雑談している時」
23／最近、一番感動した事は？「4/1に【夢屋】で手作り表彰状を貰えた事とその内容」
24／一ヶ月、毎日食べるとしたら何？「シーチキンと水菜のマヨネーズ和え」
25／自分を動物に例えると何？「ナマケモノ」 26／今、一番欲しい物は？「補聴器」
27／必需品は？「携帯電話」 28／宝くじが当たったら？「地元の家を建てたい」
29／今、旅行で行きたい所は？「京都の“鴨川橋”や“哲学の道”を歩いてみたい」
30／一つだけ願いが叶うとしたら？「非現実的だけど魔法が使えるようになりたい」
31／世界最後の日、あなたは何をしたい？
「出来る事なら家族や【夢屋】の皆、私の大切な人が揃って一緒に過ごして欲しい」

私にとっては、食欲の秋（笑）がやってまいりました。今年の秋は、今までとは食欲がちょっと違います…何故なら長年苦しんで来た虫歯が一本も無くなったからです。

(子供の時の治療がトラウマになり、恐怖心から放置していた自業自得なのですが…(苦笑))

虫歯が疼いている時は、「今度こそ治療に！」と行く決心まではするのですが、一時抑えの薬でごまかしたり、水や冷えたタオルでひやしたり…と、あの手この手で痛みが治まるとなかなか行こうとせず、「ま..いつかは..」とついつい避けて見て見ぬふりをして来ました。

ところが、今年の初めからは今までのような痛みとは違い、毎晩眠れない程の激痛が続き、一番ひどかった時は、まだ寒い2月の終わり頃で「このまま死ぬんじゃないだろうか!?!」という位、つらかったです。その結果、朝になって目の下あたりがむくんでいるような気がして、鏡で顔を見てみると、見事に「おたふく風邪」の時の様に腫れ上がっていました。さすがに「いよいよ、行かなんなあ…」と渋々、歯医者に予約して治療に通い始めました。私が「ここだ！」と決めた運命の歯医者《高森歯科医院》は、普通の診察室と特診室という部屋に分かれていて「特診室ってどんな治療を…」と怖いイメージがあってビクビクしていたら、よりによって特診察のドアが開いて「中島さん」と呼ばれたので、頭の中はパニック状態になったままで中に入りました。

担当の先生が来て自己紹介を済ませたら、私の顔を見るなり「すごいですね!」と驚かれて、「今の中島さんの状態を、これ以上ほっとくこんな感じになるところだったですよ」ともっとひどくなった時の写真を見せてもらって、「この写真以上にほっとくと、最悪の場合は命にも係わります」と言われて、本当に「何でこうなるまで…」とゾッとしました。「ぼくも歯医者嫌です…自分の治療となると出来れば行きたくないと思います…でも、ここで勇気をだして来てくれた中島さんを全力で応援したいです」と言って下さって、歯医者さんなのに「行きたくない」とか（笑）変わった先生ですねと言うと「よく言われます」と、とても素敵な満面の笑顔で返って来ました。「リラックスが一番」という言葉が口癖の先生でした。私にも「歯医者に来ていると思わないで下さい」とよく精神的に落ち着かせてくれました。これからの治療方法とだいたい期間などを話し合っ、いざ治療に入ると全く痛くなくて「私が今まで抱いていた、歯医者に対する恐怖心は何だったんだ!?!」と拍子抜けしました。最初の予定では週1の予約で2ヵ月で完治する予定でしたが、予想以上に虫歯が多くて…全部の歯が完治するまでには、9月半ばまで（約7ヵ月も）、かかってしまいました。治療最終日には「本当にお疲れ様でした」「よく頑張られましたね」と先生や看護婦さんに言ってもらえて、自分でも不思議な事なんです。「もう来なくて良いんだな…」と思うとホッとするはずが、ちょっと《寂しい》気持ちになりました。諦めていた穴だらけの酷い歯をキレイにして頂いて、私が最後まで続ける事ができる様に、いつもふざけたり冗談ばかりを言い精神面で支えて下さって先生に本当に感謝しています。「こんなに楽しい歯医者さんなら、怖がらずにもっと早くから行けば良かったなあ」と思いました。

《2倍...3倍...幸せいっぱい誕生日♪》

「三十路…三十路…」と騒いだ年から早くも2年が過ぎ2月12日で32才になりました。自分で言うのも凶々しい位、最近？神経が凶太くなって、当日は朝から「今日は誰かお祝してくれるかな？」とドキドキ…ワクワクと期待の気持ちいっぱいでした。(笑)【夢屋】に着いたら、深雪さんが「お父さんが用意してくれた」とプレゼントを渡してくれたので、

「やったあ♪」とすぐ開けたらとても可愛い服だったので、早速…着てみたら皆が「似合うよ」と言ってくれて、照れくさかったけど嬉しかったです。その後、いつも通りパン作りを始めていると…竹原お爺ちゃんとナホ子さんが外出前にわざわざ寄って下さって「おめでとう！」とお2人からもプレゼントを戴いて、そこからはプレゼントラッシュでした。タクさん、サトミさん・ナオキさんに続いて…ミヤさんからは、面白い手書きメッセージ入りの《鬼ころし》という焼酎と割って飲む為のジュースまでセットでプレゼントして貰えて、失礼ながら…読んで笑ってしまいました。最終的にプレゼントの山ですごい事になり、いくら凶々しい私でも(笑)

こんなにお祝いして貰えるとは思ってなかったので…幸せいっぱいな気持ちになり、おかげ様で午後からの仕事は、いつも以上↑にやる気(元気)が出てきました。笑顔いっぱいでお得意先にパンを届けたら、今度はお客さんから予想外のプレゼントを戴いて…お祝いの言葉をかけて下さる方もいらしたので「よく覚えてくれているな…」とちょっとビックリしたけど、感謝の気持ちがいっぱい幸せが2倍になりました。

配達が終わりに家に戻ると、今度は2～3日前からケンカして冷戦中だった母が「お母さんが悪かった…」と謝りながらプレゼントをくれました。私も「ごめんね」と謝って、珍しく家族が揃ってお祝いをしてくれました。お母さんからのプレゼントの中身は、欲しかった財布だったので、この春から使おうと思います。タクさんのプレゼントやごちそうを前に、今日みんなから貰ったお祝いのメッセージをアルバム帳に貼りながら、読んだり思い出していたら、二重にも三重にも幸せを感じて夢の様な一日でした。

チーちゃん日記

<http://p.booklog.jp/book/36872>

著者：夢屋プラネットワークス“游人たち”

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/asobito/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/36872>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/36872>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.